

してゐる、會社は本年夏季に三十九坑を掘鑿し、ロシヤ側の國營トラストも殆ど同数の事業をやるといふことである、現にオハは人口約六萬に達すといはれてゐる、會社側は一日五百噸を輸出し、トラスト側は一日二百噸を用すといふことである。

○ロシヤの國營農場

ソヴェエツト政府は過去の農業生産機關を破壊した埋め合せに、國營農場又は集團農場（コルホーズ）の出現に全力をつくしてゐるが、今その近況をきくに、聯邦内には世界に其例を見ざる大國營農場（ギガント）即其面積四萬乃至十萬ヘクタールを有する農場のみにても既に六十七箇を有し同トラスト所屬の國營農場の全面積は本年春季の播種面積百五萬ヘクタールに達した、一九三一年には其の耕作面積八百萬ヘクタールに達し其の貨物的穀産の量は本年は六百十萬ツェントネルで、一九三一年には三千五百萬ツェントネルに達するであらうと云つてゐる。これは幾分宣傳氣味であつて、事情はそれ程都合よく集團農場が働か否や全く不明である、ソ聯邦當局の云ふ所によればロシヤは既に大穀物農場の世界的記録を作つた、全世界に於て、何處にも國營農場（面積十萬ヘクタール以上のものをギガントといふ）に匹敵するものはない、米國に於て最大且全資本主義國に於ける唯一のケムベル農場でも三萬ヘクタールを有するに過ぎない、しかしロシヤにはそれ位の大きさの農場ならば既に百箇以上もある、その上ロシヤではその耕作法も亦米國の最大穀物農場

に追いついて百%まで機械農業になつた、二萬五千臺のトラクターがそのために用ひられてゐる、耕作のみでなく作物收穫も機械化し收穫機械（コムバイン）が千五百五十臺も用ひられてゐる、恐らく一九三二年には革命前の地主農業の約二倍の穀物を輸出しうるのであらうといふ。

以上は現在のロシヤの農業の米國化の傾向を語るものであるが、果して都合よく行けば、ロシヤは再び世界の穀倉となりうるのである。土地廣くして人の少い國であるから、さうしたことも考へられ實行されるのであるが、問題はさうしたギガントの農夫の能力如何である、人は働かないでも全く機械力によるとすれば、つぎは機械と人力との争闘が起ることとなる、しかも別項述ぶる通りノヴォシビルスクには食糧の不足がある。矛盾の多い國であるとせねばならぬ。

質疑應答

問 ノヴォシビルスク市

答 シベリヤ鐵道の開通と共に、オビ河鐵橋々畔を廻り、一八六二戸の移民に依り、ノヴォニコラエフスク村の形成せられたるは近く一八九二年のことなりしも、同地はオビ河水運を控へ交通の要衝に當り、漸次商工業の股盛を見るに至り一九〇三年には市と稱せられ、一九〇八年にはアルタイ鐵道の開通あり人口五萬に達せり、ソヴェエツト政権樹立後政府

は西伯利首都を當地に移し、一九二五年ノヴオシビルスクと改稱し、西伯利行政經濟等萬般の中心地として以來人口頗る増加し、一九二六年には十二萬、現在十七萬を數へ、諸種工場の建設に伴ひ、市街は日進歩膨脹すると共に面目を一新し、今は革命以前に殷盛であつたトムスク、オムスク、竝イルクーツク等を凌ぎ聳然頭角を顯はしつゝ發展の路を辿つてゐる。そこで住宅難の問題が発生し、共同住宅の大きいのが續々として築かれる、旅館も狭くて收容洩の旅行者が困るのを救はんとする増築も行はれる。前世紀の遺物たる停車場も亦當然改築されねばならぬ運命にあつて、本年中にトルケスタンシベリヤ鐵道の開通と共に急速に實行せらるべく、オビ河の埠頭も將來左岸につくられる事となつた。水陸の交通と相俟つて、シベリヤ横斷航空路の中心として市の郊外エリツオフカに飛行場が出来た。自動車の開通火力發電所の増設上水道下水道の開通等にあらゆる設備が改良される筈であるが、實は目下その資源が不足してゐる。

當市オビ河對岸に工場地帯を計畫し、農具製造、綿糸紡績、亞麻紡績等を行はんとし、同時にこゝに社會主義的都市をつくる筈である。社會主義的都市とは、社會化されたる勞働及生活様態を有する都市といふ事で、一、生活上の主要素、食物衛生、洗濯、入浴等の公共施設、二、兒童の公共的養育及教育、三、婦人を解放し男子同様に社會的業務にかしむること、四、文化的設備の一般利用等を企つるものであつて、この市域に於て綜合住宅をつくり、一の住宅には五住居團を

合せて千人の一大綜合住家とする筈である。従て親も子もないといふ國から、母は子女を手許に置いてよく、育児所に托して保育してもよいわけである。その計畫完成の一九三四年には其生産力は現在に二十倍するといふことである、同時に目下九千人の勞働者が六萬五千人になる筈で、市の人口六十萬となる豫定である。これは一に空中樓閣らしい設計であるが、本年五月二十日附の我領事報告によると、ノヴオシビルスクは目下物資缺乏の爲め、牛酪、烟草、砂糖等の制限配給を行ひ牛肉の如きは、四月以來原料不足のため國營販賣になつてしまつた。これは昨年シベリヤの氣候不良のために家畜が出来なかつたこと及、農業集團化の強行を恐れ、家畜の共有を見越して農民共が一時に賣放つたため、現在の家畜數が激減した結果である。

食料品の不足とその騰貴は一般市民をして家庭の炊事を斷念せしめ公設食堂に趨くの止むなきに至らしめた。市民は食堂に行くか夫々容器を持參して定食を家庭に持歸るのであるが、それが急に出来ぬために、四、五時間もまたされる。鹽藏の馬肉を用ひるので頗るまづい定食である、當路者は食堂を増設し定食十七哥半を以て賄居るも、しかも其材料の不足は驚くべきものがある、さうした食糧の缺乏を一方にして一方に壯大な都市を計畫してゐる所に新らしいロシヤの重大な惱みがある。ロシヤは近頃ロシヤの工業化といふことを目標にして宣傳をやつてゐるが、廣大な土地、無學な人民を相手にどうして近代の都市が實行せられうるであらうか疑はしい限りである。